

# あいち病害虫情報 最新情報

平成30年 7月17日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

7月12日名古屋地方气象台発表の1か月予報によれば、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。また、気温は高いと予想されています。

## いもち病

葉いもちは、7月上旬の巡回調査において、発生を認めていません。このため、早期栽培での穂いもちの発生量は少ないと予想します。ただし、今後曇雨天が続く場合や常発地等では、本病の発生に注意してください。詳細は、本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第3号」を参考にしてください。

## 斑点米カメムシ類

県内各地に設置している予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数は6月中・下旬からやや少ない状況が続いています。また、7月上旬の巡回調査では、水田内、畦畔雑草とともに発生量はやや少ない状況です。早期栽培水田では出穂・開花しているほ場があります。適期に畦畔雑草の除草を行いましょう。防除対策は、7月2日発表の「斑点米カメムシ情報第1号」を参考にしてください。

## ウンカ類

セジロウンカは、7月上旬の巡回調査で、106ほ場中、西尾市、東栄町、豊橋市の5ほ場で発生を確認しましたが、発生量は平年に比べてやや少ない状況です。予察灯ではこれまで捕獲されていません。トビイロウンカは、これまで巡回調査及び予察灯で捕獲されていませんが（平年並）、今後の気象条件によっては飛来する可能性があります。

セジロウンカとトビイロウンカは、ほ場間での密度差が大きいので、ほ場をよく観察し、今後の発生に注意してください。

## ダイズ・野菜類・花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウおよびオオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並です。今後の発生動向に十分注意し、早期発見、早期防除に努めましよう。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、3年程前から多い傾向を示しています。今年も平年に比べて誘殺数が多い状況です。今後の発生に注意ましよう。

## ナシの黒星病

ナシ黒星病の発生ほ場では、伝染源となる発病葉や発病果を除去して適切に処分ましよう。この時期は二次伸長した枝にある若い葉に発生していることが多いので、若い葉を中心に注意深く観察ましよう。農薬の使用にあたっては、耐性菌の発生を避けるため、同一系統薬剤の連用を控え、異なる系統の農薬をローテーション散布ましよう。

## モモせん孔細菌病

7月4日～8日にかけて、連続して風を伴う降雨があった影響で、モモせん孔細菌病が今後多発する可能性があります。この時期に形成された夏型枝病斑では、活発に病原菌が増殖、漏出しています。これが感染源になるので、見つけ次第切除し、ほ場外へ持ち出し

処分しましょう。次作への越冬源量を増やさないためにも、収穫後の秋防除に備えましょう。

## ナシヒメシンクイ

7月以降は、本虫がナシ果実に食入する重要な時期になります。成虫の発生ピークから6日後頃が防除適期になるので、フェロモントラップの誘殺状況を参考に、適期防除を心がけましょう。また、交信かく乱剤（コンフューザーNなど）を設置しているほ場で、7月以降に再度設置する予定がない場合は、収穫期間中に効果が低減し、被害が出る可能性があります。今後の発生動向に十分注意し、適期防除を心がけましょう。

## チャノキイロアザミウマ

本虫の防除適期は、成虫発生ピークの時期です。アメダス観測地点において有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日（下表）を参考に防除を実施しましょう。

	愛西	南知多	名古屋	豊田	大府	岡崎	蒲郡	豊橋	伊良湖	新城	稲武
第3世代	7/5	7/5	6/30	7/4	7/1	7/5	7/4	7/4	7/4	7/8	7/27
第4世代	7/23	7/23	7/18	7/23	7/19	7/24	7/22	7/22	7/23	7/26	8/17
（前年）	7/28	7/30	7/23	7/29	7/25	7/30	7/29	7/29	7/28	8/3	8/3
前年差	5日早	7日早	5日早	6日早	6日早	6日早	7日早	7日早	5日早	8日早	7日早
第5世代	8/9	8/10	8/4	8/10	8/5	8/10	8/9	8/9	8/9	8/13	9/10

各地のアメダス平均気温から予測。※稲武については、第3世代の前年ピーク日と前年差。

7月16日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。

## 果樹カメムシ類

フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は7月に入ってからやや少なくな推移しています。今の時期、チャバネアオカメムシはヒノキやスギの球果などを餌として生育しており、これらの球果を食べ尽くすと、餌を求めて果樹園へ飛来する恐れがあります。今年はヒノキの着果量がやや多いので、8月以降の新世代成虫の発生量もやや多くなると考えられます。8月3日発表予定の「果樹カメムシ情報第3号」で、7月中下旬のヒノキ球果におけるチャバネアオカメムシの生息状況等を掲載するので、参考にしてください。

## トマト苗へのコナジラミ類の寄生を防ぎましょう！

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）を媒介するタバココナジラミ及びオンシツコナジラミが露地で活発に活動する時期です。トマト栽培が周年化している産地では、育苗時におけるこれらウイルス病の感染防止が重要です。コナジラミ類に効果のある粒剤を施用するとともに、侵入防止対策として、育苗施設の施設開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、HP「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820